

## 党幹部が街頭で訴え

公明党結党43周年を迎えた17日、太田昭宏代表、浜四津敏子代表代行はそれぞれ、先頭を切って東京都渋谷区、横浜市内で街頭演説に立ち、現場に徹して政策を実現する党構築を誓い合った10日の第5回全国代表者会議を受けての「次の戦いの勝利」に向け、新たな闘いを開始した。その演説のポイントを紹介する。

# 現場に徹して政策実現

公明党結党  
43周年



結党43周年記念の街頭演説で公明党の政策実現力を訴える太田代表(右から2人目)と、(右端から)高木陽介衆院議員、山口那津男、鰐淵洋子両参院議員＝17日 東京・渋谷区内



公明党の現場に徹した闘いをアピールする浜四津代表代行①と上田勇衆院議員②、齊藤伸一横浜市議＝17日 横浜市内

### 公明党は庶民の声を代弁し「合意形成型の政治」に全力

## 太田昭宏代表

JR渋谷駅前で太田昭宏代表は、「公明党は43年前のきょうで発党した。庶民の声を代弁する政治家はいないのか」という叫びを受け、庶民や中

小企業や地域で困っている人の側に立つ政治を今年まで書いてきた」と強調。ウソのない、率直で透明性のある、隠し事

いというのが国民の声。それができるのは公明党しかない」と訴えた。

その一例として、「政治とカネ」の透明性を高める政治資金規正法の改正問題について「すべて

の支出の領収書を公開するという与党合意を導き出し、論議をリードして

いるのが公明党だ」と述べ、公明党が与野党間の合意形成に主力を挙げていることを強調。

さらに、今臨時国会で公明党が自民党を説得して、来年4月からの高齢者医療費の負担増の「凍結」や母子家庭の児童扶

養を置き去りにしてはならない」と訪米前に福田康夫首相に注文をつ

## 浜四津敏子 代表代行

JR保土ヶ谷駅前前で演説に立った浜四津代表代行は、43年前の結党の意義について「利権と私利私欲、イデオロギー優先の政治が蔓延し、本心で一人を大切にしない生活者の味方に政治家が向き合えない」と訴えた。

「公明党はこれまで、一貫して生活者の目線で政治をやってきた。これから一層、生活者のための政治の前進に挑戦し、実現し続けていく」と訴えた。

### 福祉を日本の政治の中核に押し上げたのは公明党

現(現場)第一主義を胸に刻み、一歩一歩、生活者のための政治を実現してきた」とし、「今、福祉を言わない政治はないが、その福祉の充実を政治家が見過ごさない」と訴えた。

「日本国憲法を強化し、盤石にするのが今回の目的。そこに向けて一歩前進することができた」と評価した。

(海上自衛隊の給油・給水活動のための)補給支援特別措置法案に関しては、「民主主義には、審議の早期再開と、対案や骨子などを示して濃密な議論を行う責任がある」と指摘した。

また、あせせん利得如罰法、行政評価法、国会議員の特権廃止などの実績を挙げ、「連立与党となつて真先に『政治とカネ』と、『行政のムダ』の排除に取り組んだのが公明党」と強調。さ

らに、児童手当や奨学金の拡充、アレルギー対策、高齢者の医療費助成、妊産婦健診の無料化推進などの実績を挙げ、「連立8年間で生活者の目線から実現した政策、法律は200以上になる。口先だけ、パフォーマンスだけの政党とは違ふ」と訴えた。

時代から地道に取り組む、政治の中核に押し上げてきたのは公明党だ」と力説した。